

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

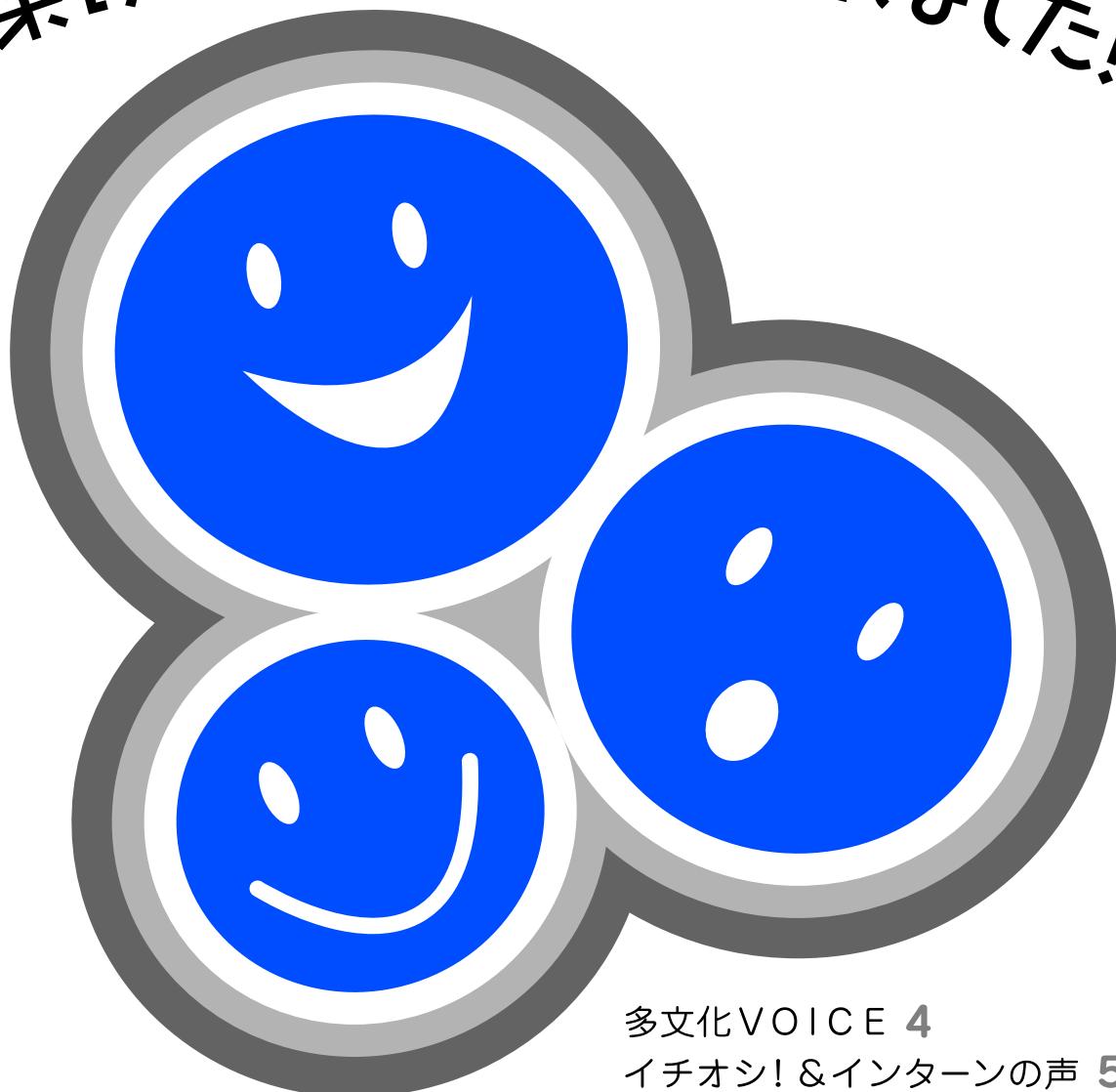
学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる

Vol.38
2012
8月号

Top News
虹の架け橋教室に採択されました!



多文化VOICE 4

イチオシ! & インターンの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

最近の活動報告 8

特集 各国の教育制度 2

ホームページリニューアルしました! <http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索



認定NPO法人

多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました！

<http://tabunka.or.jp/>

facebook.com/tabunkatokyo

@tabunka_tokyo

私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。

外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通じて、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各自の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

:たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報をお伝えしています

:教育相談

:多言語による高校進学ガイダンス

多くの皆さんに知っていただくための
働きかけをしています

:外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査

:研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、

人材育成、自主セミナー

:メールマガジン、ブログ、
ニュースレター「みんぐる」の発行

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

:子どもプロジェクト（学習支援）

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

:親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

2012年度 虹の架け橋教室に採択されました



虹の架け橋教室とは？

当センターは2010年度より文部科学省が拠出した国際移住機関（IOM）から「定住外国人の子どもの就学支援事業」（虹の架け橋教室）の委託を受けています。この事業は、不登校・不就学の外国にルーツを持つ子どもたちを主に公立学校へとつなげるため、日本語や教科のサポートを行う事業です。これまで15歳未満の義務教育の年齢の子ども達が対象で、当センター

でも不登校や不就学の小中学生が学んできました。昨年度は日本語が全く話せず、日本的小中学校へ入れない、または一度は入ったものの、日本の学校生活に馴染めず、不登校になってしまった12名の子どもたちが虹の架け橋教室を経て公立学校につながりました。



15歳を超えた子どもたちも対象になりました！

これまで「虹の架け橋教室」は中学校を卒業した子ども達は対象となりませんでした。中学を卒業して来日した15歳以上の子ども達は、日本の中学校にも入れず、高校に入るのには高校受験に合格しなければならず、「たぶんかフリースクール」では、このような学び場のない子どもたちは自費で学びに来ざるを得ませんでした。

2012年度の「虹の架け橋教室」は学齢期の不登校・不就学の子どもたちに加え、15歳以上の子ども（概ね18歳まで）がこの事業の対象となり、行政の事業として学校につなげるためのサポートを受けられるようになりました！

今までたぶんかフリースクールでは、子どもたちは午後3時間しか勉強することができませんでしたが「虹の架け橋教室事業」によって、午前からの自主事業（有償）と合わせると最大で6時間の授業を行うことが出来るようになりました。

義務教育の年齢の子どもたちにとって、日本語を学んで自信をつけて小中学校へ行けるよう、15歳を超えた子ども達は次年度の受験を経て高校に進学できるよう、サポートしていきたいです。（田中）



特集

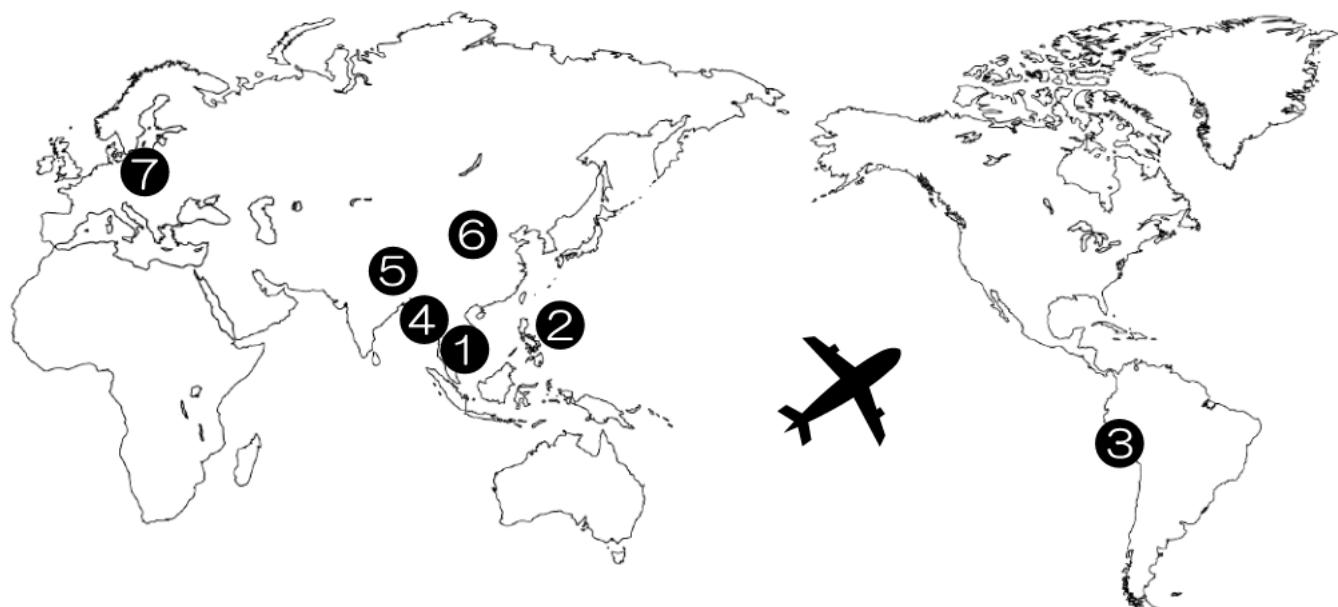
各国の教育制度



たぶんかフリースクールではいろいろな国にルーツを持つ子どもたちが学んでいます。それぞれの国で教育制度も違うため、日本に来た時の事情も様々です。例えば中国では6月に中学を卒業するため、8月や9月に来日する生徒が多くなります。日本で中学を卒業すれば9年の教育が修了になりますが、ネパールでは中学を卒業しても8年です。フィリピンでは中学と高校がひとつなので「ハイスクール卒業」とは10年終了のことでした。
(今年度改革予定)

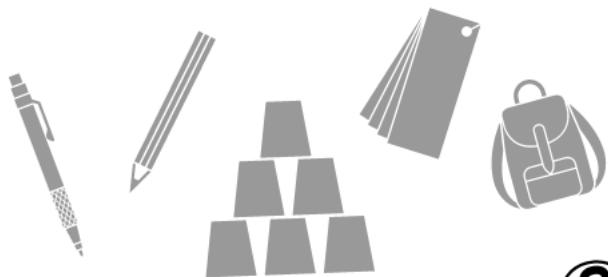
今回は現在フリースクールに通っている生徒の国の教育制度を中心にご紹介しましょう。

- 国別教育概要・特色 -



① タイ

タイの学校制度は日本と同様「6・3・3・4制」で、義務教育も同じく9年間。地方自治体が設置した公立学校ではなく、学校は原則として国立学校または私立学校である（ただし、バンコク都は学校を設置している）。



② フィリピン

小学校6年、中等教育（日本の中学校、高校に相当）4年、高等教育（大学）4年の6・4・4制だったが、2012年の6月より教育制度が変わり、小学校6年、中学校4年、高校2年、大学4年となる予定。

フィリピンの学校ってどんな感じ？

「国語や社会はタガログ語で勉強します。
数学や理科は英語で勉強します。」

- 国別教育制度 -

国名	学校制度	義務教育期間	学校年度	学期制
① タイ	6・3・3・4制	満6歳から満15歳までの9年間	5月16日から翌年3月15日まで	2学期制
② フィリピン	6・4・4制 (2012年6月より6・4・2・4制に移行)	初等教育の6年間	6月～3月	2学期制
③ ペルー	6・5・5制 (小学校一中等教育一大学)	7歳～17歳の11年間	4月1日～3月31日	4学期制
④ ミャンマー	5・4・2・3(～6)制	義務教育制度は導入されていない	6月初め～3月中旬	3学期制
⑤ ネパール	5・3・2・2・3(～5)制	6歳～15歳の10年間 ※義務教育制度はない	4月(中旬)～3月(中旬)	学期制はない
⑥ 中国	6・3・3・4制 (一部地域で5・4・3・4制)	6歳～15歳までの9年間	9月1日～7月中旬	2学期制
⑦ ポーランド	6・3・3・5(3)制	7歳～18歳の12年間	9月1日～6月の第3金曜日	2学期制

③ ペルー

小学校6年、中等教育5年、大学5年の制度。義務教育は11年間だが、家庭の事情で通えない子も多いので、授業を午前、午後、夜間の3部制にして生徒の利便性を図っている。4学期制であるが、休暇等の関係で実質的な授業時間は日本の約7割程度。

⑤ ネパール

小学校と中学校は義務教育ではないが、1977年に小学校教育無料制度を確立。教育課程は、小学校5年間、中学校3年間、高校2年間のあとに10+2(テンプラス・ツー)と呼ばれる後期中等教育2年間からなっている。

ネパールの学校ってどんな感じ？



「公立の学校ではあまり英語の勉強をしませんが、私立の学校では英語をつかって勉強します。クラブ活動ではクリケットが人気です。」

⑦ ポーランド

1999年の教育改革により義務教育は18歳までとなった。原則として18歳までは義務教育を受けなければならず、高校段階であっても退学することはできない。

ポーランドの学校ってどんな感じ？



「制服はありませんが、通学する時の服の色は決まっています。ひとクラスの人数は30人くらいです。」

④ ミャンマー

義務教育制度はいまだ導入されていないが、5歳に達したすべての児童は小学校に入学する権利が認められている。また、ミャンマーは仏教国でもあることから、教育省に承認された宗教省の僧院教育も存在しており、僧院長たる僧侶が寄付金等で経営をする僧院付属小学校、中学校、高等学校がある。これらの学校は、生活に困窮している子供たちの就学を目的としており、学費は無料となっている。

⑥ 中国

2006年には、義務教育法を改正、同年施行。義務教育は小学校6年間、初級中学(日本の中学校に相当)3年間の9年制(地域によっては、小学校5年間、初級中学4年間)。1995年より完全学校5日制となり、土・日は休日であるが、都市部では受験競争が激しいため宿題や補習も多く、英語教育は小学校から行われている。

中国の学校ってどんな感じ？



「中国の中学校はたくさん勉強します。宿題も多いです。ひとつのクラスに50人～60人くらいいます。」



出典：外務省 HP 「諸外国・地域の学校情報」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/index.html

多文化 VOICE

朱家薈

世界に一つ

今回はフリースクール卒業生のお母さんに
来日してからの事を書いてもらいました



息子は、母国ではごく普通な少年でした。毎日学校に通い、友達と遊ぶ、家ではゲーム三昧。突然、14歳の時、私たち親の都合で、異国の日本へ来なければならなくなりました。ちょうど中学校二年生の夏休みの時でした。

息子はもちろん、私自身も不安や心配ごとが沢山ありました。言葉が通じないまま、学校へ行けるかどうか、友達がいない日々はどう過ごすか、いじめに遭ったらどうしようか、1年半後の高校受験はどう臨むか。しかし、決めた以上、前に進むしかありません。

まず、私が取った行動は、日本語を学びながら中学校へ行ける方法を探しました。区役所へ外国人の子どもに対する制度があるかどうか確認に行きました。今でも鮮明に覚えています。教育委員会で対応していた職員の言葉：「転入ができますが、子供自身が続けていくのはきわめて難しい。今までの例で、途中で学校へ行かなくなったり、国に帰りたくなったり子どもはたくさんいました。覚悟したほうがいいです。そして、区から日本語支援があります。週2時間日本語先生を在籍の中学校に派遣します」と。当時、思ったのは、「大変！！週に2時間の支援？ありがたいですが、現実的になにができるか！？ひらがなカタカナだけ教えてもらうのも数ヶ月かかるのではないか」。

仕方ありません。制度は制度ですから、交渉する余地もありません。次、私が出た行動は、民間の日本語教室を探しまくりました。結果、18歳以下の子どもに向け日本語学校はまずありませんでした。また、区内のボランティア日本語教室は七つありましたが、そこは日本語を学ぶよりも交流の場でした。困ったなあと落ち込んでいた時、ふと思ったのです、もしかして区外ならあるかもと、そして、私たちの救世主が現れました、すぐ電話して息子を連れて行きました。そこ

で出会ったのは「すみだ国際学習センター」の藤田先生。先生に「多文化共生センター東京」を紹介していただきました。アドバイスを受け、息子は夏休みを利用して多文化共生センター東京で夏期講習を受けました、学校が始まる前にひらがなカタカナ、簡単な挨拶を覚えました。何とか9月1日に無事都立中学校へ入学できました。

9月1日、登校初日の朝、制服を着替えている息子を見ると、ちょっと不機嫌な顔！！「どうしたの？」と聞きますと。息子は「服はパンツ以外、全部決められている。つまらない」、「何で通学は自転車がダメなの！？」。母国の場合、制服はジャージみたいなもの、通学は自転車OK！日本とはかなりの違いですね。私は「それは、異文化だよ」と言うしかありませんでした。こうして、いつの間に本人も慣れてきました。

学校が始まっても、週4回多文化共生センター東京に通い続けました。日本語力は一気で伸び、何とか授業についていけるようになりました。半年後、中学校三年生に進級し、息子の成長は中学校の先生たちにも認められ、学級代表として、全校大会でスピーチを行いました。最初の半年は大変でした、多文化共生センターやすみだ国際学習センターなどの支援があったから、息子は言葉の壁を乗り越え、いつも笑顔も戻り、順調に高校受験に臨むことができました。

最後に息子の言葉で終了させていただきます。「広い世界で、言葉が違っても、文化が違っても、人間の笑顔は変わりません。僕は、皆の気持ちを知るためにも、皆に僕の気持ちを伝えるためにも、言葉の大しさをわかりました。」

2012.6.27 朱家薈

イチオシ

来福の家
おん ゆう じゅう
温又柔
集英社 2011年
1500円



幼い頃に台湾から両親と共に来日し、日本で育った20歳前後の女性が主人公の「好行好来歌」と「来福の家」の2編の小説。「好行好来歌」は「中国（台湾）」のパスポートを持つ揚縁珠のアイデンティティの葛藤を描いた作品。両親が話す台湾語・中国語・日本語が混ざった言葉を聞き取れても、自分自身は話すことが出来ない縁珠だが、高校3年生の時に選択科目にあった「中国語入門」に初めて興味を抱く。そこで出会った日本人の麦生との関係を中心に、家族・親子関係、友人関係、ルーツ、そして台湾の現代史を織り交ぜて、縁珠の揺れる心が繊細かつ丁寧に描写されている。「どうして、ママはふつうじゃないの？ あたしも、みんなみたいに、ふつうのママが欲しかった！」という縁珠の言葉などから、日本生まれや幼い頃に日本に来た外国にルーツを持つ子どもの多くが感じるものをうかがい知ることが出来る。

「来福の家」は、許笑笑が大学卒業後に通い始めた中国語専門学校で、これまで「音」として家で触れてきた中国語を、文字を含めた言語として獲得していく場面を中心に、周りの人たちとの関わりを描いている。「好行好来歌」より軽いタッチで描かれているため、ついつい流してページを進めてしまうが、おそらく同様の体験をしてきたであろう作者だからこそその視点が随所に垣間見える。

多文化共生センター東京では10代半ばで来日した子どもたちが中心なので、この作品の主人公が持つ感覚とは異なる部分も多い。しかし、自分が日本人であることを疑ったことのない「日本人」には見えづらい、外国にルーツを持つ子どもたちの繊細な部分を知ることができる。同時に、「日本人」の何気ない一言が外国にルーツを持つ子どもの心にどう影響するのかを知ることが出来る。

外国にルーツを持つ子どもたちに関わる人には、是非一度、いや一度ならず何度も読み返して繊細な部分を読み取って欲しい。

（田中）



昨年の12月から土曜日の子どもプロジェクトに参加している趙憲來と申します。日本生まれの韓国人です。「外国にルーツを持つ…」という意味では、集まっている子どもたちと同様です。多文化共生センター東京の活動については以前から興味を持っておりましたが、これまで日本語を教えた経験がなかったので躊躇しておりました。事務局の方に相談すると「一緒に勉強するつもりでやってみては…」と言われ、参加することにしました。始めた頃はちょうど受験対策に熱が入っていた時期で、日本語の学習以外にも論文問題の対策や面接試験のシミュレーションが行われていました。日本に来て間のない子どもたちにとって外国語での入試は大変だと思うのですが、一ヶ月、二ヶ月と経過していくうちにどの生徒も意味の通じる作文が書けるようになります。面接の質疑応答がスムーズになったりと、はっきり変化を見て取れるようになりました。懸命の努力の結果だと思いますが、伸び盛りの子どもたちの進歩の速さに驚かされました。

三月の後半になると受験の合否が知らされます。特に肩入れするわけではありませんが、やはり一緒に勉強した子がどうなったか気になります。合格と聞くとホッとします。何年か前の我が子の受験を思い出しました。

子どもたちと机を並べていると、一人ひとりの豊かな個性に触れることができます。先日一緒に勉強した南米のペルーから来た男の子は全く人見知りをしない子で、とてものびのびしています。教本を横目に首から下げた名札の紐を外し、指に巻いて一人であやとりをしています。こちらが日本語の文法を説明していると、生きなりあやとりの手をぐいっと突き出し、嬉しそうに「ほら、見てよ！ 星ができたよ」と夢のあることを言ってくれました。活動に参加して半年余りですが、今では毎週土曜日が楽しみになっています。

たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA
FREE SCHOOL



＜午前クラスが始まりました！＞

5月から午前中2時間、会話の授業を始めました。今までたぶんかフリースクールは1日3時間しか勉強することができませんでした。今年は文部科学省「虹の架け橋事業」の委託を受けて、授業の2時間無料にすることになりましたから、今までと同じ授業料で、1日最大5時間、勉強ができるようになりました。日本語の勉強を始めたばかりの生徒は午前から日本語を4時間、英語や数学を1時間勉強しています。

高校受験には国語や数学、英語のテストの他に、面接があります。面接の試験では聞く力、話す力がとても大切です。ですから、午前は日本語をたくさん聞いて、たくさん口を動かす「会話」の授業をすることにしました。もちろん、高校受験には国語のテストもあります。読む力、書く力も大切ですから、午後は日本語の文法を勉強したり、文章を読んだり、読むこと・書くことを中心に勉強しています。



＜どんな授業をしているの？＞

午前の会話の授業では教科書をあまり使いません。CDを聞いたり、絵を見たり、ロールプレイをしたりしながら、楽しく日本語を勉強しています。それから、近くの図書館や郵便局、商店街へ行き、実際に授業で習った日本語を使って、会話練習もしています。

買い物の会話の練習もしました。授業で習った日本語を使って、買い物をしながら、商品の値段を聞いたり、店の開店・閉店時間を聞いたりして、会話の練習をしました。

フリースクール本校の近くの図書館へも行きました。先生に地図をもらって、自分の力で図書館まで行きました。もちろん、子どもたちは図書館へ行ったことがありませんから、図書館への行き方を知りません。先生も教えてくれませんから、自分たちで地図を見たり、近くの人に道を聞いたり

して、全員無事に図書館まで行くことができました。それから、図書館で本を借りるためには、図書館のカードを作らなければなりません。カードの作り方先生は教えてくれませんから、子どもたちは自分で図書館の人にカードの作り方や、本の場所を聞いて、自分の好きな本を借りることができます。

いつも先生たちはやさしい日本語で教えてくれますが、商店街や図書館の人の日本語はとても速くて、知らない日本語も多いです。話が伝わらないかもしれません。間違えたりもしますが、日本語を使って、自分の力で買い物や本を借りられたことは子どもたちの自信になったと思います。これからも、子どもたちが自信を持って、自分のことや自分の意見を言えるようになるよう、工夫した授業をていきたいと思います。

＜愛知県の中学生との交流会を行いました＞

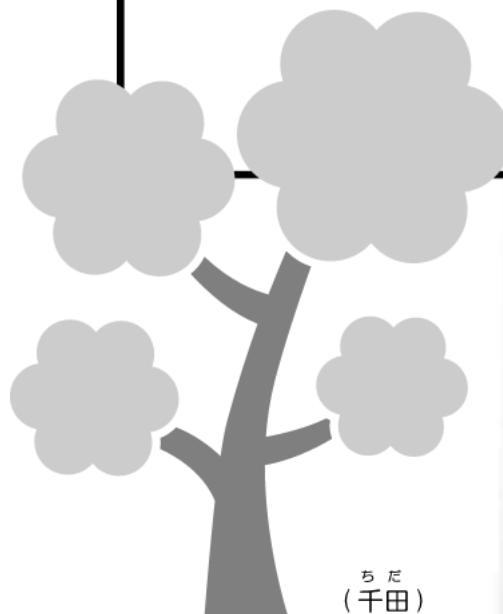
6月6日(水)に愛知県小牧市立桃陵中学校の3年生34名がたぶんかフリースクールに来て、交流会を行いました。桃陵中学校の生徒たちは学校の授業で国際理解について勉強していますから、修学旅行で東京を観光しながら、国際理解に関係があるいろいろな団体へ見学に行きました。多文化共生センター東京へは34名の生徒が見学に来ました。

はじめに、たぶんかの子どもと桃陵中学校の生徒が混ざった10人ぐらいのグループを作って、自己紹介や、自分の国・地域の紹介をしました。たぶんかの子どもたちは授業で勉強した日本語を使って、自分の国の有名な人や食べ物、場所を中学生たちに紹介しました。その代りに中学生たちは写真を使って、愛知県や自分の学校について教えてくれました。交流会に参加したたぶんかの子どもたちは日本語の勉強を始めて2ヶ月ですから、まだ知っている日本語の数は少ないです。でも、知っている日本語を一生懸命使って、趣味や学校のこと等を質問しています。桃陵中学校の生徒もいろいろ考えながら、簡単な日本語にしたり、絵や漢字を書いたりしながら、親切に答えてくれました。

それから、みんなでゲームをしました。まず、た

ぶんかの子どもたちが中学生たちに中国語とタガログ語で1から10までの数字を教えました。そして、その数字を使ってゲームをしました。はじめ、子どもたちはみんな緊張した様子でしたが、ゲームが始まると、国や言葉は全然関係ありませんでした。英語や日本語、ボディーランゲージ、知っている言葉をいろいろ使って、あっという間に仲良くなっていました。子どもたちの中にはメールアドレスを交換したり、一緒に写真を撮ったりする子どももいました。

最後に、ある中学生が「日本に来て、一番驚いたことはなんですか。」とたぶんかの子どもたちに質問しました。たぶんかの子は「今日、みんな（桃陵中学校の生徒）に会ったことです。」と答えました。中学生に「たぶんかへ来て、一番驚いたことは何ですか。」と聞くと、中学生は「たぶんかのみなさんに会ったことです。」と答えました。今回の交流会はたぶんかの子どもたちにとっても、日本の中学生たちにとっても、新しい発見があり、とてもいい思い出になったようです。今回の交流会をきっかけに、子どもたちの輪が広がればいいと思います。



ちだ
(千田)



さいきん カッピ うほ うこく

最近の活動報告

おやこ 親子プロジェクト

5月19日の土曜日NPO「フードバンク」が主催する「田植え」に、親子日本語クラスの小学生の男の子4人とボランティア・事務局5人の計9人で参加しました。「田植え」には6団体の約70人が参加しました。多文化グループ9人はマイクロバスで田んぼのある群馬県板倉町に向かいました。

現地に着くと早速、子ども達はカエルやザリガニを探し、犬と遊び、周辺探索を始めました。田植えグループと畠ごはんづくりグループに分かれて作業しました。田植えは、田んぼの手前から参加者が横一列になり、手で苗を植えて奥へ進みました。田植えに加わった子どもは一人、私たち大人が楽しんでしまいました。

田植えが終わって、みんな揃っておいしいお昼ごはんをいただきました。暑いと感じる日差しの中、熱いトン汁に温かいご飯、でも、食が進んだのは体を動かしたから？きれいな空気だから？楽しかったから？

子ども達にとって、この日の「笑って、泣いて、驚いて・・・」の経験が「田植え」という言葉に彩りを与えてくれるものと期待しています。「言葉」が経験と知識によって豊かなものになっていくものとすると、子ども達には経験することの全てが「言葉」の勉強であるようにも思います。親子日本語クラスで過ごすことが子ども達にとって「言葉」の勉強につながるものになってほしいと願っています。(叶)

こどもプロジェクト

毎週土曜日の午後三時半からは子どもプロジェクトによる学習支援。最近は中学生に比べてすこし落ち着きのある高校生が勉強に来ることが多くなってきています。

高校に入ると授業が難しく、ついていくことが大変ということがあるのでしょう。日本語の学習用語を一つずつ覚えていかなければならることや、とにかく古文は大変だとみんな言っています。ただ以前はなんとか椅子に座らせ、勉強させていた子どもたちが高校に入ると自分から勉強に取り組むようになったかなと思います。

受験前、試験や面接のことで悩んでいた子どもたちが意願の高校に入学してからまた苦労するのは大変だと大人は勝手に思いますが、子どもたちは部活に入ったり、友人が増えたり、またアルバイトができるようになったりとそれぞれ生活を楽しんでいるようで、生き活きとした表情で高校の生活を語っているのを見ていると、こちらも嬉しい気持ちになります。

また雑談の最中に「高校卒業後はどうするの?」「将来何になりたいの?」という質問をするとずいぶんと具体的な将来像を話してくれ、成長したんだなと思うこともしばしばです。(鴻森)



さいきんのかつどう 近況概要 Recent Activity

にほんご

た ぶんか きょうせい とうきょう ねんど てい じゅうがいこくじん こ しゅうがく しえん じぎょう たいしょう えら
多文化共生センター東京は 2012 年度も「定住外国人の子どもの就学支援事業」の対象に選ばれました。
これは、学校に行っていない外国にルーツを持つ子どもたちが、学校に行けるようになるために、日本語
や教科のサポートを行う事業です。2012 年度の「虹の架け橋教室」は 15 歳以上の子どもも対象となり、
学校につなげるためのサポートを受けられるようになりました。
た ぶんか きょうせい とうきょう た だんたい とも つうやく こうこう しんがく せつめい おこな にほんご ほ
多文化共生センター東京は、他団体と共に通訳つきで高校進学についてなどの説明を行う「日本語を母
語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を開催しています。多文化共生センター東京が主催
した 6 月 24 日の文京会場でのガイダンスには 75 名が来場しました。次回のガイダンスは 10 月の予定
です。

中文

多文化共生中心・东京在 2012 年度再次被文部科学省选为“在日定住外国籍孩子的就学支援项目(虹桥教室)”实施团体。这个项目主要是为了让那些因语言不通•没能去学校上学•不想去学校但是想升学的外国籍孩子，能顺利的在日本学校上学，而进行日语以及其他教学科目的辅导与支援。2012 年“虹桥教室”扩展招收对象，15 岁以上的孩子也可以参加学习，为了能够让他们顺利的进入日本的高中，而进行着各种教科支援。

今年的 6 月 24 日，由多文化和其他团体共同举办“不以日语为母语的家长及学生为对象的多种语言日本高中升学说明会”。这次说明会的在文京区举行，共有 75 名家长和子女通过同时翻译参与了此次说明会。下期的说明会预定于今年 10 月举行。

English

In 2012, Multicultural Center Tokyo was again chosen as one of organizations for government initiative supporting immigrant children with permanent residency access Japanese schools (Niji no Kakehashi classes). This program aims to connect school-age immigrant children not attending school to local school through supplementary Japanese, Math and English. In 2012, children over 15 also became eligible for Niji no Kakehashi classes.

On June 24th, Multicultural Center Tokyo held “Multi-language High School Guidance” for parents and children who are not Japanese native speakers. In this guidance, a total of 75 parents and children participated in the guidance through simultaneous translators. The next “Multi-language High School Guidance is scheduled in this October.

2012年度 会員募集！

多文化共生センター東京では、多文化共生社会を私たちと共につくっていく会員を募集しています！会費はセンターの運営費の他、様々な事業のために使われます。会員の皆様へは、このmingleの他、メーリングリスト等を通して多文化共生に関する情報を提供します。

■年会費（4月 - 翌3月）

正会員 5,000円

賛助会員（個人）3,000円 / 1口

（団体）30,000円 / 1口

※10月 - 翌3月入会の場合は半額です。

■申し込み

下記いずれかの方法で会費をお振込み下さい。

①郵便局から：00110-8-407588

名義：多文化共生センター東京

（振込用紙に「入会希望」とご記入下さい。）

②銀行から：ゆうちょ銀行019店

当座0407588

加入者名：トクヒ タブンカキョウセイセンター
トウキョウ

※銀行振込の場合、お振込後にメールや電話で、名前・
住所・電話番号・メールアドレス・「入会希望」・「ニュー
スレターへのお名前掲載の可否」をお知らせ下さい。

ありがとうございます

皆様の会費・寄付は活動に大切に使わせて頂きます。

（順不同・敬称略 4/1～6/30（現在）

■正会員

【新規】前田修司、土方健一、高橋克文

【継続】片桐圭久、久富陽子、渡辺翼、鴻森大介、田中阿貴、柴山智帆、福田和久、風間晃、伊東千恵、伊東敬三、佐藤恒久、趙憲來、西村眞理子、木野美穂、中野真紀子、大嶺浩、叶健兒、佐藤均、加藤眞理子、澤井留里、高鳳仙、守谷恵子、奥谷規子、谷口真理、井岡智子、山辺眞理子、小谷美保、緒方命一、若島礼子、清宮ユミ、坂本保孝、青山英保、加藤千秋、千田綾、大村光伸、山田泉、鈴木江里子、黒沢茂子、佐藤信行、春原憲一郎、小林愷子、佐藤千佳、清水静子、松尾沢子、多田佳昭、横山恵美子、出口雅子、佐藤恒久、三竹直哉、小林卓、藤居啓二、根岸昇、山田富秋、岩崎素之、江戸弘樹、岡美織、蛎崎奈津子、春日源子、下村愛、萩原和代、田所希衣子、加藤知子、井上晴子、中島有加里、柴香里、村田厚子、小澤健、角田仁、匿名

■賛助会費

【新規】湯川浩、中野澄子、乙川明、匿名

【継続】張正翼 豊田文雄、尾澤邦子、長須賀厚、殿村浩江、鍵谷智、藤岡朝子、大倉信生、石原弘子、長谷川琴枝、瀬野喜代、赤岩雪江、堀源一郎、坂本昌代、武田有紀子、社会福祉法人青丘社、匿名

■寄付

（一般寄付）

柴山智帆、風間晃、堀源一郎、西村眞理子、樋口真規子、若島礼子、関本保孝、黒沢茂子、清水静子、下村愛、李炫澈、守谷恵子、匿名

（たぶんか子ども基金）

長須賀厚、福田滋、清宮ユミ、武田有紀子、樋口真規子、風間晃

編集後記

広報チームにプロボノのデザイナーさんが加わり、デザイン一新しました！これからも読みやすい紙面を目指します。

みんぐる vol.38 2012年・8月号(8月発行)

編集：多文化共生センター東京広報チーム

（Alberto Diaz、岸田洋二、鴻森大介、柴山智帆、多田佳明、張学鑫、中野真紀子、平川詩子、湯川光太郎、李琳）

発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は英語 “mingle” = 「(2つ以上のものが各要素が区別できる程度に) 混ざる・一緒にする・交流する」から名づけました。



認定NPO法人

多文化共生センター東京 Multicultural Center TOKYO

事務局・たぶんかフリースクール本校 (Tabunka free school, Main Campus)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里1-5-8 (旧真土小学校3F)

1-5-1 Nishi-nippori, Arakawa-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-3801-7127 E-mail: tokyo@tabunka.jp

Open: 火曜日～土曜日 10:00～19:00

Access: JR常磐線「三河島駅」徒歩1分

たぶんかフリースクール新宿校 (Shinjuku School)

所在地: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-17-14-101

1-7-14-101 Hyakunincho, Shinjuku-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-5389-8825

Open: 火曜日～金曜日 10:00～19:00

Access: JR山手線「新大久保駅」徒歩3分、JR中央・総武線「大久保駅」徒歩2分

